

みんなで創るこれからの小児保健 次世代の成育に向けて

岡明

東京大学医学部 小児科

子どもが幸せに成長し、また将来を支えてほしいとみんな考えています。しかし今や子育ては大変なことととらえられて、少子化社会が進んできています。

社会の変化の中で小児保健の在り方も変化を求められているようです。小児保健の関係者は、子育ての専門家として、子育てを支援し、子育てをしやすい環境を作ることも大事な使命になってきていると思います。また、現場での直接的な取り組みだけでなく、子どもや子育ての家庭を代弁して、社会に理解を求めることも重要な役割になってきています。少子高齢社会では高齢者の課題もちろん重要ですが、少子化によって小児保健への期待はさらに高まっていると思います。

子どもと接することが少ないままで親になることも当たり前の様な時代になっています。親になったからと言って、子育ての技術を最初から知っているわけではなく、しかも孤立しがちな現在の家庭環境の中で周囲からの援助も限られており、確かに子育ては大変な経験かもしれません。その一方で、乳幼児期に保育を使用する割合が上昇してきています。これは子どもを取り巻く環境の大きな変化です。家庭がもちろん子どもを育てる中心ですが、大事な時期を保育の中で過ごす時間が大きく占めるわけですので、ある意味では社会が子育てをする部分が大きくなってきているとも言えるかと思えます。

その時に、やはり小児保健のプロフェッショナルの育成が、これからの大きな課題であると思えます。少子化の中で社会の注目を集めにくくなってきているだけに、ここはあえて声を大きくして、子どもに関わる専門職の育成を呼びかけていくことがますます大事だと考えます。その意味では、成育基本法が子どもたちの健康のために制定されたことは、大きな変化であり、これを一つのターニングポイントとして子育てをしやすい社会にすることが使命ではないかと思えます。

本学会がまさにそうした子ども心身の健康と成育を考える場であり、この様な機会に会頭を務めさせていただいたのは大変に幸運なことであると感じております。本講演では、そうした子どもを取り巻く環境と、我々の役割について考察をさせていただこうと思えます。